



4月4日(金)

入園式 4月4日(金) 3歳児

【教育＝共育】 幼保連携型認定こども園は、保育所と幼稚園が合体した幼児施設で、幼稚園の多くがこども園化しています。0～5歳児まで一貫した保育・教育をするのがこども園ですが、2歳までは保育で3歳児から幼稚園型の教育がスタートします。

3歳児は「**悪魔の3歳児**」と呼ばれています。

3歳になると自己主張が強く、感情表現が豊かになり、筋力もアップして、動きが活発になります。イヤイヤ期から反抗期を迎えます。しかし、これも成長の証です。心配なことが増えますが、先生方は、「保育のプロ」です。何なりと担任に相談してください。～**こども園は教育機関で託児所とは違います**～



《集団生活の中で「生きる力」を学ぶ》

一番小さい子が泣いていると一番大きな子が寄って来て「どうして泣いているの？いっしょにあそぼう！」と声をかけました。近くに先生はいませんでした。これがこども園で集団の中で学ぶことです。遊びながら、様々な体験を通して生きる術を学びます。

ところが、お母さんが迎えに来ると急に甘えます。楽しく遊んでいるように見えて、園での生活は、子どもなりにストレスを抱え込んでいます。でも、子どもはストレスが分かりません。

お休みの日は、しっかり保護者さんと一緒に過ごすことでリフレッシュします。どんなにこども園で先生が頑張ってもお家の人には敵いません。家族団らんが一番安心で幸せなときです。

「生きる力」とは、自ら考え、自ら判断し、自ら行動することです。

4月10日(火)

家庭訪問 あるのはこども園だけ？ 4月10日から24日まで

《廃止する学校が増えている理由》

① 教師の負担軽減 ② コロナ禍が契機になった。③ 学校行事の過密により、家庭訪問を廃止して、その代わりに学校に来てもらい面談する学校が増えています。

家庭訪問の目的は、家での子どもの様子、保護者や家の中の雰囲気など、家庭環境の確認が目的です。学校と家庭・地域との連携推進の方法としても挙げられます。

お仕事をお休みすることになりますが、年に一度です。こども園では、家庭訪問を大事な機会にしています。よろしくお願いします。

4月9日の校長会議で町内小学校在籍者数推移が示されました。

それによると令和7年度は176名で200名を切りました。今の3歳児が小学校に入学する令和10年度は164名です。その後は毎年約20名ずつ減り続け、令和14年度には100名を切る？。



4月14日(月)

4月の教訓 「不平不満が顔つきに出る」

「置かれた場所で咲きなさい」

(聖心女子大学名誉学長 渡辺和子)

人生は、見方一つ、考え方ひとつで幸せにも不幸にもなる。周りの環境を言い訳にせず、努力を続けるというメッセージです。本意・不本意な人事はサラリーマンである以上は不可避です。親と上司は選ぶことができません。与えられた場所・仕事・職責を自分なりに気持ちを整理して立ち向かうことが求められます。

どんな異動でも人事でも「なぜ？」と思った瞬間、不平・不満が顔つきに出てくるものです。そして、それが何度も積み重ねられ、その人の顔そのものになっていくのです。

「あの先生だったらよかったのに…」子どもも担任の先生を選ぶことはできません。それだけに担任は頑張らないといけません。ところが親が担任の悪口を言った瞬間、子どもと先生との信頼関係にひびが入ります。

4月15(火) 22日(火)19時からの総会よろしくお願いします

学校は PTA 総会の出席状況で、「その学校の教育力がわかる」と言われています。保護者の学校教育に対する関心度の表れだからです。しかし、今はどこの学校も出席者が少なくなっています。北見の若松小学校は特任校(校区がなく北見市内どこからでも通える)です。私が赴任していたときは、児童数 30 数名の小さな学校でしたが、PTA 総会には両親揃って、また地域の方も参加するので出席率は 150%を超えていました。

わくわく園もお蔭様で、例年多くの方にご出席をいただき役員選出も積極的に手を挙げていただいて大変助かっています。

園ができて今年 10 年目です。少子化で園運営は、これまでのようにはいかなくなりました。保護者の皆さんの協力なくしてわくわく園は成り立ちません。お願いすることもあります。年に一度の総会です。ご出席くださいますようお願いいたします。

4月16日(水) 今、家庭教育についてさまざまな批判が出ています。

- ・保護過剰のため「親離れ、子離れ」ができず、他者への思いやりの心が育っていない。
- ・基本的行動様式(しつけ)ができていない。
- ・放任主義で子どもの恣意的な生活を見過ごしている。
- ・学校をはじめ学習塾や習い事など「教育の委託化」が安易に行われている。
- ・核家族化し、子どもたちは、生命や伝統等についての日常的な感覚を持つ機会が少ない。などなど

心当たりはありませんか？ しかし、昔はこんなことがきちんとできていたのでしょうか？ 少なくとも私の両親は、立派な親ではありませんでした。今ほど豊かな時代ではなく、親はせわしなく働き、子どもの教育に熱心ではありませんでした。私も含めて、今の親を批判する資格はありません。時代が移り変わり、子育ての考えも大きく変わっています。

ところが 200 年前の「家庭よ、汝は道徳上の学校なり」(近代教育の父ペスタロッチ)、また「子どもは父や母に結び付けていた絆は決して切れることはないが、それはゆるむ」は、今も生きています。どんなに時代は変わっても、子育ての基本は変わりません。

4月17日(木) 今年10年目のわくわく園

～園児数の経緯～

平成 28 年 173名	平成 29 年 170名	平成 30 年 158名	平成 31 年 136名
令和 2 年 140名	令和 3 年 148名	令和 4 年 138名	令和 5 年 127名
令和 6 年 118名	令和 7 年 109名	(4 月 4 日の数)	

(収容人数最高200人)



*開園記念式典は、平成 28 年 4 月 2 日に行われました。

それまでの町立の保育所と幼稚園が統合してこども園になりました。

園児数は、毎年 4 月 4 日現在の 0～5 歳児までの人数です。

4 月以降、毎年 10 名近く途中入園する園児がいます。

3 歳児以上の就園率(町内の幼児が就園している割合)は 100%です。

最近の傾向として未満児の就園率がどんどん上がっています。

***令和 10 年度以降は総園児が 100 名以下になる予想です。**

今年もすでに未満児と 4 歳児が 1 学級になっていますが、3 歳児が卒園するときは全て 1 学級になり

ます。日本の総人口の減少は 14 年連続。少子化に歯止めがかかりません。1 年間で 55 万人も減っています。それでも「**消滅しない県ランキング**」で、北海道は第 3 位です。



4月18日(金)

少子高齢化・人口減で起きる弊害

人口が減少すると税収が減ります。税収が減ると住民サービスに支障をきたします。保育料や給食費の無償化や古い公共施設や水道管などの建替えや取替えなど、莫大なお金がかかります。だからと言って税金を上げることは難しいでしょう。それに人口減の影響は、自治体の問題だけではありません。

実はPTA(育友会)活動にもかかわってきます。昨日、わくわく園が開園した 10 年前の園児数を紹介しました。10 年経って 70 名も減っています。その分会費も減っているということになります。今後も減ることは間違いありません。加えて、このところの物価高で、これまでのような活動や使い方ができなくなります。だからといって、保育料等が無償化になる中で、育友会の会費を上げるわけにはいきません。育友会総会では、このことも話題にして、新しい役員の皆さんと協議していきたいと思っています。

新 1 年生 下の子のお迎えに付いてきた 1 年生に「今日は、何のお勉強したの?」と聞くと「まだ、勉強してないよ!」と答えました。勉強とは、本を読んだり、字を書いたり、たし算をしたりすることと思っているらしく、そうした勉強は、まだしていないらしいのです。

一人で帰る 1 年生がいました。横断歩道で「右見て、左見て、また右見て」渡っていました。ちゃんとこども園で学んだとおりにやっていた。小学校の 1 年生担任から「みんなとっても行儀が良くて、びっくりです」と言われました。

4月19日(土) **全国学力・学習状況調査(学力テスト)**が小6と中3を対象に実施されました。

18 日の新聞に問題が載っていました。出題傾向から、今の時代どんな学力が必要なのか分かります。保護者の皆さんが、子どもの頃にやったテストとは全く違います。算数の問題は、国語か?と思うくらい問題文が長いです。簡単な四則計算の問題はありません。国語も長文を読んで、〇〇字以内に解答する内容になっています。

知識や技能ではなく、思考力や表現力、判断力が問う問題が多く、読む力や書く力の習熟が必要となります。北海道は、いつも低いのですが、問題によっては、全く手を付けていない子が多い傾向にあります。

思考力や表現力・判断力は、小さいころからの積み上げが必要です。まだ、まだ先の話ではありません。小さい頃から自ら考え、自ら判断し、自ら行動する、自主性を育てることが大事です。国語や算数も大事ですが、生活科が好きな子は、学力も高いという傾向があります。



今年のスローガンは「**以和為貴**」

聖徳太子の十七条憲法の第 1 条です。「みんなで力を合わせてやっていきましょう」という意味です。**なんか古臭い!**と言われましたが、園長が年寄りなので、勘弁してください。

4月22日(火) **今、PTA が危ない!** (4月20日の読売新聞)

公立小中学校 PTA の全国組織「日本 PTA 全国協議会」の会員数が 100 万人以上減少

PTA は学校単位、市町村、都道府県、政令都市の組織の頂点に日 P があります。保護者が支払う会費のうち、子ども一人当たり年 10 円が日 P に納められます。

昨年札幌で開催された全国幼稚園・こども園研究大会に日 P の会長さんが来賓として出席していました。また、文科省の重要な会議にも保護者の代表として参加しています。

育友会の会長になると、町の学校運営協議会の委員になり、保護者の代表として意見を言うことができます。ま

た、育友会三役の皆さんには、年に2回の保護者アンケートの結果を報告し、園運営についてご意見を伺います。PTAの役割は、学校行事のサポート、保護者同士の交流、学校運営への意見反映などが挙げられます。家庭と学校が連携する組織ですが、それが今、危機にあります。

4月24日(木) 今年のわくわく園の研修テーマは「**自己肯定感の醸成**」

「自己肯定感」て何? ~自己肯定感が低い子どもは?~

「初めて取り組むこと」「難しいと感じること」はすぐにあきらめる、「どうせダメだから」とチャレンジしない、失敗すると「自分のせいだ」と考えてしまう。

子どもの自己肯定感を高めるには、ありのままの姿を受け入れ、失敗を否定せず前向きな言葉をかけ、成功体験を積み重ねる工夫が大切です。具体的には、子どもが頑張ったところを褒め、成長を認め、意見を求め、選択する機会を与え、そして子どもの話に耳を傾けることが効果的です。



こども園では、先生方全員で子どもたちに自己肯定感を醸成し、自信をもって行動し、新たなことに挑戦する力や困難に立ち向かう力、良好な人間関係を築くこどもの育成を目指すことにしました。これには園だけでなく、家庭の協力も必要です。自己肯定感とは、3才頃までに形成の土台が築かれ、10歳前後までにある程度決まると考えられています。

4月28日(月) ~自己肯定感とは、人間の成長にとっても大切なものです~

暖かくなってきて、農作業が本格化しました。朝早くからトラクターが動いています。来週から連休が始まりますが、農家さんには休みのない忙しい毎日です。お疲れ様です。

23日の『たんじょう会』で「大きくなったら何になりますか?」と質問されて、大きな声ではっきり「牛飼いです」と答えた5歳児さんがいました。

早期発見・早期治療は、治療効果の向上、体への負担軽減、経済的負担の軽減、生活の質の維持など、多岐にわたります。早期発見により治療率が向上し、治療後の生活の質も高まります。早期発見・早期治療は、病気だけではなくありません。子どもの問題行動やいじめ・不登校も同じです。

問題行動がエスカレートしないために重要な取り組みです。早期発見により、問題行動が深刻化する前に適切な支援を提供でき、子どもたちの心身の健康を守ることができます。早期治療は、問題行動を改善し、子どもたちがより良く成長するための土台を築きます。「ちょっと様子を見ますか?」はよくありません。**こども園と家庭の連携が大事**

こども園(学校)では、先生方が問題行動の早期発見に努めています。家庭では、子どもの様子を注意深く観察し、気になる兆候があれば(些細なことでも)すぐに担任に相談するようにしてください。これが「face to face」「共育」です。子どものことを一番知っているのは、保護者さんです。



玉ネギの苗植えが始まりました。機械化が進んで、短時間で多くの苗を植えているのをしばらく見ていました。

GWになると教え子の言葉を思い出します。「連休は、雨が降ればいい。そしたら、父さんが『温泉でも行くか?』と言うから…」農家さんには休みはありません。翌日、玉ネギ畑では、捕植作業が行われていました。これは機械にはできないようです。

*今年から毎日、コドモンで配信して、玄関ホールのモニターで見ることができます。

次回の発行(紙)は、5月末を予定しています。